



2月を迎えました。1月の大雪に大変な苦労をさせられました。如何でございませう。子どもたちは、そんな事無頓着！むしろ喜んでおります。合わせて、感染対策の強化を実施中です。せわかつの幼児期に、のびのびとした生活をさせてあげられない毎日です。子どもたちに申し訳ない気持ちいっぱいです。

■ 手洗いうがい・手指の消毒は勿論ですが、遊具・教杖などもしっかり行っており、運転手さんたちと、バスの中の消毒には余念はありません。

園舎内の換気にも余念はありません。勿論バスの換気も実施中です。

子どもたちのマスクは、どんな場面でも必須です。ホールで、廊下で汗を流して走りまわっていると、そうして、雪あそびの時とマスク顔です！

子どもたち一人ひとりの表情を読み取るのに、どうしても余計なマスクになっている毎日です。

■ 2学期の後半には、年長児たちの跳び箱の指導ははじめておりました。

低い台を前にして、助走をして両手を台の上について、両足を広げてとび越えて立つという動作です。



今学期の指導は、まず台の高さが一段ずつ高くなります。

標準は5段の跳び箱です。その高さを跳び越えるには

5・6メートルの助走が必要になります。

そうして、走って、ふみ板でふみ切って！両手を付いて！両足を広げて前へ跳び！マホの上に立つ！という動きを小さなエレベーターを使っているのです！度胸が必要です。跳んだら感謝です！

(心の育ちシリーズ)

「明けましておめでとう」の意味？

日本人はお正月に誰 飛と異口同音に「明けましておめでとうございます！」と挨拶をします。

それも、世界中で日本だけなのです。他の国では一切言わないようです。私たちは「新しい年をお互いに迎えて良かったですね」と言う意味であると勝手に解釈してきたのでしょう。

しかし、次のような説もあるようです。

昔、人の命のはじまりは出産ではなく懐妊でした。子どもの年齢は母の胎内からカウントされて、この世に生まれ出た日を1歳の誕生日としたのです。

この「数え年」の考えで行くと、皆 満年齢より歳多くなります。「歳はとりたくない！」という気持ちは誰しも同じですが、死なない限り歳をとるので、加齢はめでたい証だったのです。だから「旧年中にあの世に逝くことなく新年を迎えられた」ことに対して、会う人会う人お互いに「おめでとうございませう」と言い合ったのです。

この時代、全員が一斉に一歳をとりました。年内にあの世に逝くか知らないで誕生日まで待っていたら良かったのです。嬉しい事は先に祝う「予祝」の習慣です。だから、満99歳で亡くなったとして「享年100歳」と表記したのです。

98歳で今なお講演活動をしている外科医の井口 潔先生に「健康で長生きの秘訣を聞いたら、間髪入れず「そんなこと考えたこと無い」と。

そうして、こうはか加えたそう「長生きはたまたまです！」と。

参考文 日本講演新聞(旧みやぎ中央新聞)より